



8月になりました。今日から期末懇談会です。

期末テストも終了し、その後2週間にわたり通常の6時間(または7時間)の授業が行われました。本来ならば夏休みであるこの時期に生徒のみなさんは本当によく頑張りました。再び新型コロナウイルス感染者も増えている中、出来るときにしっかり学習することは大切です。

これからまだまだ油断はできませんが、困難に耐えて、努力して乗り越えることが、やがて実を結ぶのだということを忘れずにいてほしいです。保護者のみなさまにおかれましても昼食のご準備等、ご協力ありがとうございました。

さて、今日からは、期末懇談会です。1学期の自分を振り返り、2学期に活かしていけるように、担任の先生と学校生活や学習のこと、また家庭での様子などじっくり話して頂きたいです。よろしくお願いいたします。

夏休み・本を読もう!~「紙の本」を読む大切さ~

「夏休み」と言っても今年は土日を含めて9日間しかありません。夏休みの時間を使ってぜひ本をたくさん読んでほしいです。

見出しには、~「紙の本」を読む大切さ~と書いています。「紙の本」とは、パソコンやスマートフォンなどのデジタル端末で読む文章ではない、図書館で置いている皆さんがいつも読んでいる本のことです。つまり、これから私が書くことは、いわゆる読書のすすめです。

~「読む脳」について~

ヒトが文字を読み、書くことは当然だと私たちは考えます。しかし、それは違います。読み書きはヒトの天性のものではないのです。発明です。文字は、今から約6000年余りに作られたと考えられています。最初は、群れを成す野生動物の頭数を数えるといった単純なものだったそうです。

ヒトには、見る・聞く・話す・嗅ぐといったことは遺伝子に組み込まれています。生まれてきた赤ちゃんは、まわりを見ることやにおいをかぐことなど自然にできるようになります。幼児になれば、話すことをはじめ、

自分がしたいことなど簡単な意思表示もできます。

しかし、読み書きは遺伝子に組み込まれていません。ではどうやって読み書きを身につけるのか?それは、大人が忍耐強く文字を教えるのです。幼児は、文字が1つ1つ違う音に対応し、そのまとまりが意味のあることだと記憶する。脳の中で文字と音を意味づけた全く新しい複合回路が発明される。脳の柔軟さが読み書きを可能にするのです。脳の中の働きによって文章の意味がわかるようになるのです。このことは、「読む脳」と言って、「読む脳」は経験を重ねて成長します。子供は読むことで成長するのです。

~大人への第一歩~

10歳から12歳ころになると、知識が増え、考える力が少しずつ備わり、本の作者や登場人物の感情や考えがわかるようになるのです。世の中には自分と違う考えの他者がいることを理解できるようになってきます。これは大人へ向けての第一歩です。そして、その先に「深い読み」があります。読み続けながら、時代も文化も国も違う作者とも想像力を働かせて「対話」し、作者の思いをわかりつつ自分の考えを見つけていく。そういった「深い読み」はとても大切で、自分とは考えの違う人の存在を認めることが基本的人権の尊重につながります。

最近のデジタル媒体(パソコンなど)と紙で読む本を比較した調査において、紙の本で読むほうが、話の内容・筋立て・場面などをよりよく記憶し、理解できたそうです。「早く読む」と「よく理解する」ことを取りちがえてはいけません。しかし、デジタル時代は後戻りできません。子供の時代にできるだけ多く紙の本に親しみ、深く考える脳を育ててください。これらのことは、アメリカの神経科学者 メアリアン・ウルフ氏が言うておられます。中学生の今から「紙の本」をたくさん読んでください。想像力を持ち、自分と違う考えの他者を理解し合えるような大人になり、そのような社会を作っていくのは皆さんです。

【参考文献】

「デジタルで読む脳×紙の本で読む脳」(メアリアン・ウルフ)
(学校長 織田 容子)

~今後の予定~

月日	予定	期間
8/3(月)	1学期末 3者懇談会	~6(木)
8/7(金)	終業式	
8/8(土)	夏季休業(12・13・14は閉庁日)※	~16(日)
8/17(月)	2学期始業式 午前授業	~25(火)
8/24(月)	3年学力診断テスト	~25(火)
8/26(水)	給食開始	

9/3(土)	眼科検診(2年生、1・3年は抽出)	
9/8(火)	内科検診	~10(木)
9/15(火)	体育大会 予行	
9/16(水)	体育大会準備(午後)	
9/17(木)	体育大会(午前)※昼食必要 片付け(午後)	
9/30(水)	耳鼻科検診(2年・1、3年は抽出)	

閉庁日について

別紙にてお知らせの通り、今年度は、8月12日(水)、13日(木)14日(金)が閉庁日となっています。学校は休みとなります。電話も通じません。部活動もありません。緊急時は教育委員会の方までお願いします。

田尻町教育委員会 ☎ 466-5022

本年度の主な行事について

本年度の体育大会は、新型コロナウイルス感染予防を考慮いたしまして、種目や内容を精選しました結果、時間を短縮し、午前中のみの開催とします。また、来賓・保護者の参加は難しいと判断し、生徒たちのみで行います。午後は片づけ等のため、当日は昼食のご用意をお願いします。

そして、文化祭、合唱コンクールにつきましては、全学年が体育館において長時間過ごすこととなります。よって職員で話し合いました結果、今年度は中止ということになりました。

あいさつ運動・緑の羽根募金

生徒会では、毎朝校門前で、代議員が中心となってあいさつ運動を行っています。あいさつ運動の旗も作りました。朝、登校したら元気よくあいさつしましょう。

また、7月20日(月)~22日(水)には生活委員会で緑の羽根募金を行いました。みなさんのおかげで合計5098円集まりました。ご協力ありがとうございました。



田尻中学校ホームページのご紹介

田尻中学校の取り組みについては、町のホームページでもご紹介しています。中学生の保護者の方以外にも、中学生の活躍や中学校の取り組みに関心を寄せていただければ幸いです。

[田尻町トップページ](#) → [各課の案内](#) → [教育委員会](#)

→ [指導課](#) → [田尻町立中学校](#)

- 学校長より
- 田尻中学校ブログ) (休校中生活記録 感想紹介 等)
- 中学校通信(4月号~8月号)
- 防災に関する資料(動画等)
- お知らせ(進路に関するお知らせ 等)
- 勉強ができるようになる方法(1~5) 等

心を健康に保つこと

8月に入りました。木々が青々と茂り、セミが一斉に活動を始めました。暑い夏が今年もやって来ます。梅雨の長雨と温暖化型豪雨によって各地では被害に見舞われ、人々はたびたび恐怖と今後の不安に悩まされています。さらに、感染症の拡大は勢いを再び増し、日本の先行き自体が不透明になっています。中学生においては、進路や学習に対する不安と負担に挟まれ、心身の状態が心配されます。

今回は、拡大する感染症を例に取り上げ、私たちを取り巻く「不安」が引き起こす新たな課題について考え、前向きに生活するために何が大切かを考えたいと思います。

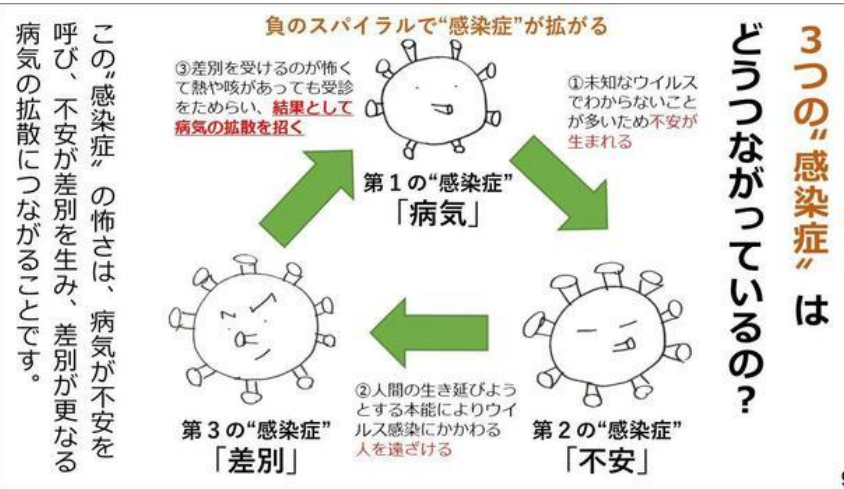
日本赤十字社は、ホームページにおいて、新型コロナウイルスには「3つの顔(感染症の側面)」があると指摘しています。

1つ目の顔は、「病気そのもの」です。感染者からの飛沫感染によって、風邪の症状から肺炎に至るまで様々な症状を引き起こします。程度は人によって大きく異なり、無症状の方もいれば、「肺が針で突きさされるような痛み」を伴う場合や、退院後も微熱や体調不良が続く、社会復帰できていない方もいます。「他人ごと」とは考えずに、今後も引き続いて、自分自身にできる感染予防に努めましょう。

2つ目の顔は「不安と恐れ」です。ウイルスについて不明な点も多く、まだ完全な形でのワクチンや薬もありません。日々のニュースで感染者数を聞くだけでも1か月前とは不安の度合いが違います。この不安は、「周囲に感染しやすいもの」です。自分が不安を感じているところ

に、周囲の人も同じように感じている事を知り、不安がさらに強まる。

そして、その不安から、「嫌悪感・偏見・差別」が広がっていくことが3つ目の顔です。今まで、報道等で感染を知ることが中心で、遠くの「自分とは無関係」だったことが、近隣での感染者の発生によって急に危機感を覚える。できるだけ自分から遠ざけたい。「感染対策はしていたの?」「密な場所へ行ったのでは?」など、感染者に嫌悪感を覚え、拒絶し、差別が始まる…。急に自分に降りかかってくると、慌てて自分の安全だけを考えるような言動に陥り、集団で個人を誹謗・中傷にさらしてしまう危険があります。



(日本赤十字社 HP より引用)

あらゆる人や物が高速で移動できる現在、感染の危険は誰にでもあるものです。それに、情報までもが高速でやり取りされ、中には不安や差別を拡大させる情報もあります。…人間の心は、逆境になればもろくなりやすいものです。不安が強まるのも仕方がないことかもしれません…。

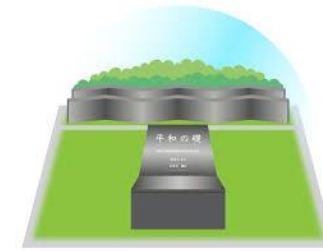
しかしながら、人生はいつも順調なわけではないことも周知の事実です。不安からくる感染者や医療従事者等への差別は決してあってはなりません。不安は「先が見通せない事から起こるもの」であり、どんなに強い不安に襲われても、「自分が勝手に思い込んでいる」場合も多く、結局は目の前のすべきことをただただ「真剣に取り組む」ことでしか解消されないのです。

これだけ、世界中に感染が広がり、新たな感染の波も起こっていれば、「誰もが当事者」です。自分の事として行動に責任を持ち、助け合いによって互いの心を健康に保つことが大切だと考えます。

(こども支援コーディネーター 横井武志)

「平和」について考える

今年の8月15日で、第二次世界大戦の終戦から75年の節目を迎えます。日本は、昭和初めの経済的な不況を打開するために、武力で他国の資源の獲得を計画し、中国との戦争を開始し、1941年からはアメリカやイギリスなども戦争を起こしました。結果、世界各地では5000万人を超える方が亡くなり、日本でも多くの死者を出しました。



日本では全ての都道府県が米軍機の空襲被害にあい、沖縄では米軍が上陸して地上での戦闘となりました。さらに、広島と長崎には開発されたばかりの原子爆弾が投下され、熱と爆風、そして放射線によって、一瞬にして家族との生活や人生が失われました。多くの方が

が高齢となった今でも、体と心の傷に悩まされています。そして、今も氣力を振り絞って戦争の体験を語り、私たちに「戦争の悲惨さ」「平和を築くことの大切さ」を訴え続けています。

「平和」とはいったい、どのような状態のことを言うのでしょうか。確かに、日本では75年もの間、国内で戦争被害は起こっていません。しかし、戦争はなくても、誰かと誰かが互いに「対立」していたり、SNSを含む集団のなかで、誰かが一方的に傷つけられていたり、直接的な攻撃はなくても、集団の中で安心して過ごせずに、苦しさや寂しさを抱えていたりしている人はいないでしょうか。「身近な平和」の一つ一つが崩れていくことで、大きな溝が生じ、それが国と国とのレベルにまで拡大すれば戦争となります。



日本の夏は「平和を考える夏」です。お盆で家族や親せきが一同に集まり、笑顔で過ごせる時にこそ、おじいさんやおばあさんに戦争の事を自分から聞くことは、平和を守り、築いていく姿勢のひとつではないでしょうか。戦争体験者の多くの方々は、「今の生活こそが有難い(めったにない)こと」であり、住む家があり、着る服に恵まれ、毎日食事にありつけること、そして、家族や友人と日々過ごせることだけでもありがたいことだとお話しされます。お話を伺うことで、少しでも今の生活や家族・仲間とのかかわり方を振り返ることが「身近な平和をつくり上げる」ことにつながるのだと考えます。

(こども支援コーディネーター 横井武志)

(こども支援コーディネーター 横井武志)